



本校の授業改善に向けた視点					
指導内容・指導方法の工夫	教育課程編成上の工夫	校内における研究や研修の工夫	評価活動の工夫	家庭や地域社会との連携の工夫	小中一貫教育の視点
<ul style="list-style-type: none"> ○算数科の習熟度別指導を行い、基礎基本の定着を目指す。 ○体験的・問題解決的な指導を重視する。 ○地域の人材や教材を授業に生かす。 ○表現する力を養うために、外部講師を招いた学習を設定する。 ○年間指導計画および評価標準の活用と改善を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> ○週に1回、言語に関する朝学習を行い学力の基礎・基本の確かな定着を図る。 ○読書環境および読書活動の充実を図る。 ○年2回の読書週間の実施、保護者の読み聞かせ、毎週1回の朝の読書タイムを実施する。 ○異年齢集団や隣接学年などの交流を日常的に取り入れ児童の好ましい人間関係を育成する。 	<ul style="list-style-type: none"> ○学級経営の研究を基に、豊かに関わら合う学級集団をつくり、思いや考えを表現し合える児童を育てる。 ○若手教員による模擬授業を行い協議会をもつなど、OJT研修を充実させることで、基本的な授業の進め方について全員で再確認する。 	<ul style="list-style-type: none"> ○授業や諸活動の中で、随時適切な評価を加え、その結果を指導に生かす等、評価と指導の一体化を目指す。 ○学習の中で、児童が相互評価、自己評価をし、それをもとに新たな課題を作るように工夫する。 ○保育園と1年生の交流を深め、入学時がスムーズに行えるよう連携をする。 	<ul style="list-style-type: none"> ○土曜授業を含め、年間10回の授業公開を実施する。 ○学校公開の保護者の感想や外部評価を授業改善に生かす。 ○保護者・地域の方々を講師にした体験学習を充実させる。 ○学校評議員による学校運営への参加を進める。 	<ul style="list-style-type: none"> ○校区別協議会で話し合ったことを活かし、中学校での学習を意識した学習活動を行う。 ○9年間を見通した課題改善カリキュラムを作成し、活用する。 ○算数科の学習を通して9年間で身に付けるべき学力を系統的に捉え、効果的な指導を工夫する。